

みんなでやらいや！

～まちづくり活動報告～(第21回)

大山町区長会会長に聞く！

平成25年の安原集落区長であり、本町の区長会長の栄正男さんに、大山町の地域づくりについてお話をうかがいました。

集落や地域でできること

「安原集落の納涼大会」を通じて、

栄 正男 (大山町区長会長)

現在、私は、ご縁あつて安原集落の区長並びに、大山町の区長会長の務めています。任期は、残りわずかですが、今回、安原集落におけるまちづくり活動を通じて、将来を見据えた「地域づくり」について、私を感じたことや、わかったことをお話しさせていただきます。

安原集落では、8月10日(土)、「安原納涼大会」を行いました。

祭りの内容は、皆でカラオケを楽しみ、子ども



▲栄 正男さん

も向けのゲームなどをした後、最後に花火を打ち上げ、そこに住んでいる人やその方と関係の深い人と交流を深める場を設けるというもので、運営資金の調達から当日の進行についても、すべて安原集落で行っています。

当日は、小さな子どもからお年寄り、また、近隣の集落の方々も参加してくださり、約200人が一同に会した、大変にぎやかな祭りとなりました。

頼もしい若者たち

これまで、祭り当日の運営に携わっていた役員は、50代から60代が中心でありましたが、今年からは、20代から40代の若者へ引き継いだ初めての年でした。

祭りを開催するにあたって、実行委員の会議では、若者たちが集い、内容の検討をしていました。そうした中、特に若者の人口が減少しつつある集落の今後を考えると、将来的に現在の役員数を確保することが困難になっても、この祭りを持続可能なものにするため、「地域活性化支援事業交付金(※1)」を活用し、現時点でできる準備をしておきたいという提案がなされたのです。

私は、この提案を受け、役場へ出向き、担当課と相談のうえ、交付金の交付を受けました。

※1地域活性化支援事業交付金

この交付金は、自治会等が、創意工夫を凝らして地域活性化を図ろうとする際に、役場から支払われるものです。



▲花火の担当を引き継いだ若者たち

この出来事で、少子高齢化により地域における担い手の減少の波が、この安原集落にも押し寄せている状況に対し、我々60歳前後の世代のみならず、若者たちも危機感を募らせていることに気づきました。それと同時に、そうした問題意識を若者たちが持つていることに、頼もしさも感じました。